

研究紀要第32号

# 子どもと共に創る生活

— 期にふさわしい生活を求めて —



1999

島根大学教育学部附属幼稚園

## はじめに

# SOSと3Eで教育する幼稚園に

— 研究紀要に寄せて —

島根大学教育学部附属幼稚園長 山下 政 俊

### 1、魂の原点としての幼児期とそこで期待されている「教育」

小学生・中学生の不登校や高校生の中退の急増、彼らの非行・問題行動の増大など、わたしたちを悩ますような事態が広く・深く進行しています。幼稚園を巣立っていく子どもたちが、そのような存在になるとは、想像もしないことです。幼児期は、人間の一生にとって特別の意義を持っています。それは、この時期に人間の根源となる魂の普遍的で個性的な深奥や内実が、顕現し形成されていくからです。もしそうだとすると、この時期における家庭と保護者、地域と大人や子ども、幼稚園と友だち・保育者という人的環境の「魂の自己形成支援」に果たす役割は、とりわけ大きなものがあります。そうした点から幼児期における子どもたちの育ちのあり方が問われています。育ちを保護者や子どものあり方に単に委ねていくのではなく、より積極的に幼稚園でこそ期待される確かな教育を、この教育困難な時代にひらいていくことが求められています。子どもに固有な魂の成長支援のあり方を、幼児教育において真摯に追究していきたいと思います。

### 2、SOSと3つの効果(effect)でひらく保育

ここでSOSと言っているのは、いま附属幼稚園が追究していることのわたしなりの表現です。

- (1)S (stageの頭文字) — 子どものその時々にも固有な表出・表現を示す発達の様相の洞察・確認とその時期に特有な生活や活動の場・舞台という環境の設定
- (2)O (opportunityの頭文字) — ある発達の様相にある子どもの生活や活動の様相と呼応する経験やカリキュラムや働きかけの最適な時機・機会の判断
- (3)S (seasonの頭文字) — その時々の子どもの適期なニーズにフィットする生き生きとした適機な素材・教材となる四季折々の適宜な行事や活動の提供

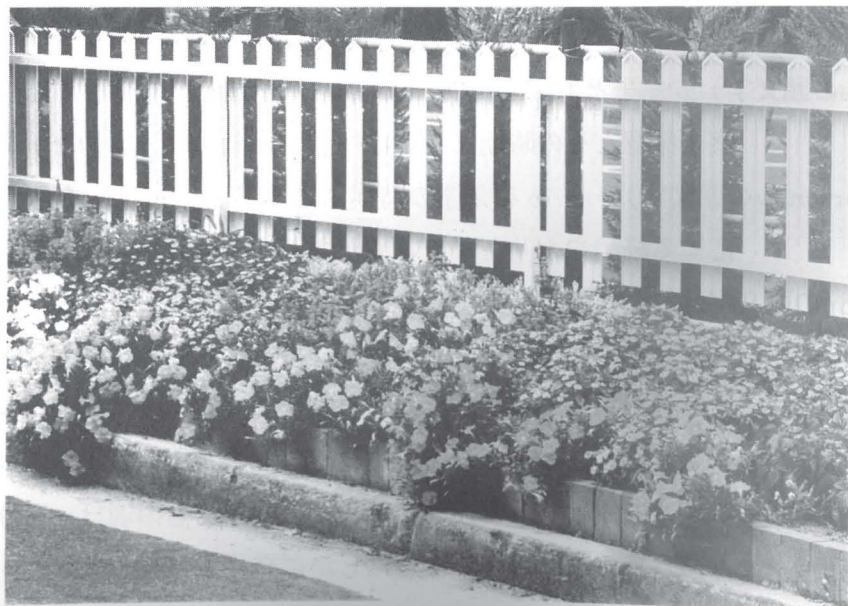
子どもたちは、いま有している魂の発露や拡張や深化と癒しのために、周囲にその実現の機会や場や関係や活動を求めて日々やってきます。周囲や物事に対する興味や関心、心情や意欲、構えや態度を生み出し、その根源となっている子どもの魂は、遊びのなかで現れますが、以下の視点から受けとめられると、たしかに発見され・支援され・活性化されるに違いありません。

(a)魂は、いつもその固有なあり方を外への拡がりと表現、内への深まりと蓄積という異なる方向の統一において豊かになります。その時々の様相を洞察して保育に翻訳し結合すること、そのための舞台設定が、いまそこの子どもの欲求・発達の充実を約束します。(S)

(b)成長期の魂は、いつでもどこでも機を窺って表出・発現・成長したがついています。その性質と呼応する環境・状況・関係・事柄の構成や対応の投入としてのカリキュラムや働きかけの最適な時機・機会を判断することが、子どもの生命の躍動感を生み出します(O)

(c)魂は、適期と適機に応じて出現します。その現れと響き合う最良で適宜な自然や社会との出会いの演出や構成が、子どものイマジネーションやクリエイションを誘発します(S)

このようなSOSを子どもに応じて考慮できれば、わたしたちは、①ステージ効果(子どもの発達期の最新の欲求や意欲とそのために必要な舞台を予想できること)、②タクト効果(子どものニーズに臨機応変に対応すること)、③シーズン効果(子どもに最適な時期・機会を提供すること)という3つの効果を獲得できます。いま生きる力の育成が叫ばれるなか、21世紀を生きる子どもの魂を確かに豊かに支持・促進する、教師の多様な役割と教育が期待されています。





## 教育課程

### 各論

1. 3歳児いちご組 ..... 安藤佐智子 ..... 23  
居場所と自立感との関連性を探る  
—一人ひとりの居場所をみつめて—
2. 4歳児さくら組 ..... 野津 道代 ..... 46  
子どもがみつけていく遊びと発達の課題を充たす経験との関連を探る  
—身近な自然の環境や生きものとの関わりに注視して—
3. 4歳児たんぼ組 ..... 岡崎由美子 ..... 87  
子どもがみつけた時期時期の遊びの中で経験していることから  
—Hがみつけていった遊びの姿から—
4. 5歳児ほし組 ..... 星野 和美 ..... 103  
ひとりひとりの思いを大切に  
—5歳児7期の「げきごっこ」「えいがごっこ」の遊びの広がりの中で—
5. 5歳児つき組 ..... 灘 かおり ..... 121  
学級の仲間意識（心と心のつながり）の育ちの過程をみつめて  
—「アメリカに行っているY児にみんなの思いを届けよう」の活動を通して—
6. 家庭・保護者とのふれあいと連携を求めて 副園長 福田 郁子 ..... 152

### 特別寄稿

1. 研究紀要第32号によせて  
島根大学教育学部美術教育研究室 川路澄人先生 ... 155
2. 保育研究会では、どのようにして、何を共有化するのか。  
—言葉による共同化と結晶化—  
島根大学教育学部教育学研究室 権藤誠剛先生 ... 156
3. 3歳児保育をどう捉え実践するか？  
島根大学教育学部幼児教育研究室 田中昭夫先生 ... 158
4. 保育者の願いと子どもの成長  
—幼児画の向こうに広がる世界をみつめて—  
島根大学教育学部美術教育研究室 間鍋武敷先生 ... 169
5. 今日の教育困難と幼児教育の課題  
—保育者に対する新たな期待と役割—  
島根大学教育学部教育学研究室 山下 政俊 ... 178

### 研究の成果と今後の課題

- おわりに ..... 副園長 福田 郁子 ..... 182

## お わ り に

今年の冬は例年になく雪の日が多く、雪遊びをしっかりと楽しむことができました。まだまだ寒さは続いています。ふと花壇に目をやると子どもたちの植えたチューリップがかわいい芽を出して春を待っています。子どもたちもまた、この一年間で培った生きる力のエネルギーを体いっぱいに出させながら、2000年の春を待っています。

幼稚園のくらしのなかでたくさんの人と出会い、また、豊かな自然環境の中でさまざまなものと関わり、子どもたちは学び発達してきました。心ゆくまで遊んだ後の充実感や満足感は次の歩みへと繋がり、さらに意味ある経験を重ねて行くことができました。これら一つ一つの経験が、これから生きていく上で貴重なものであることは言うまでもありません。

研究を進めていくなかで、子どもの見せるパワーに驚くとともに、本当に一人一人が個性ある存在であり、個に応じた支えが必要であることを改めて感じました。それだからこそ、教師の役割を常に自問自答しながら関わり方を追求していく姿勢がなくてはなりません。

私たちは、「研究を通して得たことを子どものくらしに生かしていこう」と思いながら取り組んできましたが、まだまだ課題も多くこれからの積み上げが求められるところです。

これまで研究を推進していく中で、ご指導ご助言賜りました島根県教育委員会、松江市教育委員会を始め、島根大学教育学部、また附属小学校・中学校のたくさんの先生方に厚くお礼申し上げますと共に、たいへんお忙しい中、ご寄稿いただきました島根大学教育学部の先生方の温かいご支援に対し深く感謝申し上げます。

今後の研究に向けて皆様方のご批判ご指導賜りますようお願い申し上げます。

副園長 福田郁子

### 島根大学教育学部附属幼稚園研究同人

園長	山下政俊
副園長	福田郁子
教諭	野津道代
	星野和美
	灘かおり
	安藤佐智子
養護教諭	永見智佳子
非常勤講師	岡崎由美子
非常勤講師	昌子 誠

島根大学教育学部  
附属幼稚園研究紀要第 32 号

発行日 平成12年 3 月31日

発行者 島根大学教育学部附属幼稚園  
松江市大輪町416- 4  
TEL(0852) 2 1-2 6 0 4